

中合福島店 8 月末閉店 創業 146 年、会社清算へ 福島駅前再開発に影響必至

「中合（本社・福島市）は 5 月 26 日、福島市の中合福島店を 8 月 31 日で閉店すると発表した。営業終了後は会社を清算し、創業百四十六年の歴史に幕を下ろす。JR 福島駅東口の再開発計画に伴う建物の賃貸借契約満了が、閉店の主な理由。再開発ビルへの入居を期待する声もあっただけに、長年にわたり「県都の顔」として市民に親しまれてきた老舗百貨店の閉店は、今後の駅前再開発へ影響を与えるのが必至とみられる。

中合によると、福島店の 2019 年度の売り上げは六十億円で、ピーク時の 1992（平成 4）年度の 2 百億円の 3 分の 1 以下にとどまる。新型コロナウイルスの影響による一時休業もあり、四月の売り上げは前年比の 40% となるなど厳しい経営状況が続いていた。閉店は同じ辰巳屋ビルに入居していたホテル辰巳屋の営業が終了した昨年 8 月ごろから、検討していたという。再開発ビルへの入居も検討したが、再開発工事期間中は休業や別の場所で営業を求められるため、採算が取れないと判断した。従業員は正社員 45 人、パート・アルバイト約 50 人のほか、151 のテナントで約 350 人が働いている。中合が加わっているイオングループ企業などへの再就職をあっせんする。会員組織「友の会」は 26 日で新規会員の受け付けを中止した。積立金は返金する。

2010 年 2 月に会津若松市の中合会津店が閉店するなど、現在の主な店舗は福島店と 7 月末で営業を終える会津若松市の中合サテライトショップ会津のみとなっていた。

福島市内で 26 日、記者会見した黒崎浩一社長は「多くの人に支えられてきたが、営業を終えることをお詫びする。従業員の雇用確保を最優先業務として取り組む」と語った。イオン広報部は「今後について、具体的な決定はない」としている。

中合福島店の営業終了の発表を受け、福島市は 27 日、市緊急経済・雇用対策本部を設置する。従業員の離職への対応などを確認する。

県内で日本百貨店協会に加盟しているのは、中合とうすい百貨店（郡山市）の 2 社。8 月末以降は、うすい百貨店のみになる見通し。

8 月末閉店の中合福島店 消える「県都の顔」 「贈答品どこで…」

老舗に時代の荒波 従業員ショック 今後の雇用不安

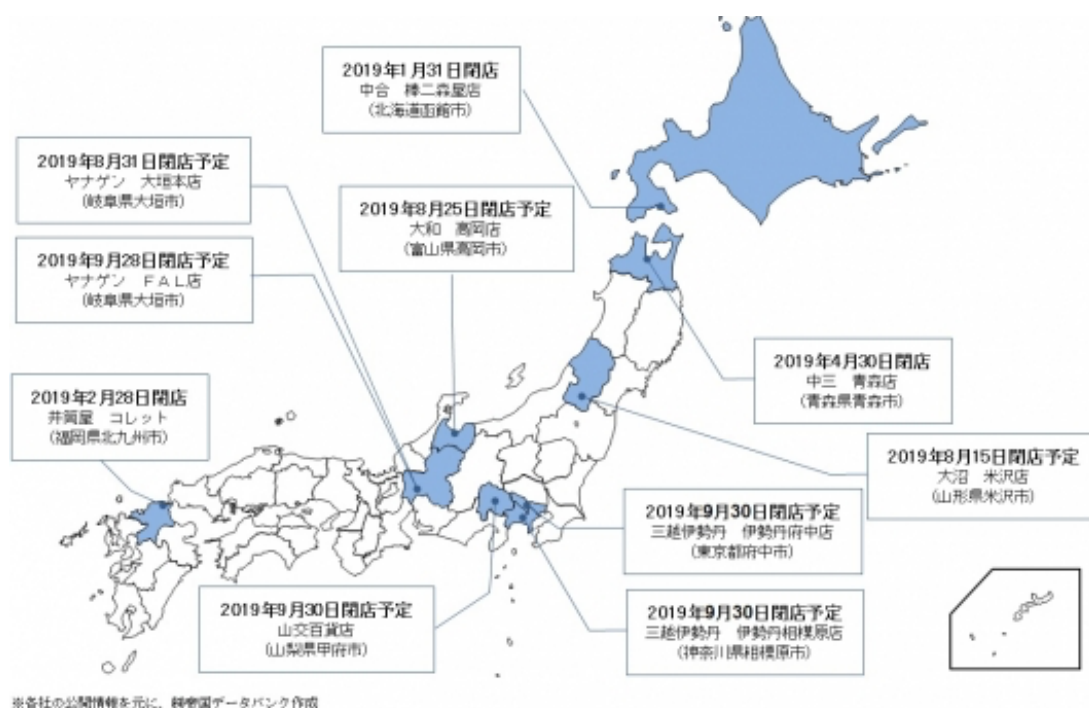
「創立 46 年の歴史を誇り、JR 福島駅前に移転オープンしてから 47 年。「まちのデパート」の存在は多くの人に深く刻まれている。「青い包装紙が、もう見られなくなるのか」。買い物客や市民には驚きと落胆が広がった。

福島市の菅野美代子さん（75）は新型コロナウイルスの影響で外出を自粛し、1 カ月半ぶりに同店を訪れた。「中合」といえば、特別な買い物をする場所だった。若い頃から洋服を買うなど利用しており、「思い出の店なのでがっかり。これからどこに買い物に行けばいいのか分からない」と肩を落とした。「今朝、閉店を告げられた。言葉が

なかった」。中合福島店に役 40 年勤めいている 60 代の女性従業員は、ショックを隠せない様子だった。」（「福島民報」20 年 5 月 27 日付け）



【8月末で閉店する福島市の中合福島店＝26日午後】



【2019年に閉店/閉店予定の百貨店】